

# それぞれの転換点

ターニング・ポイント

日本初の緊急事態宣言が出された4月。しかし、事態の収束が見えず5月末まで延長。不要不急の外出や休業等の要請により、直接の影響を受ける飲食業界。終わりの見えないなか、それでも前を見つめ、それぞれの転換点に立ち、挑戦を続けています。

## 出会いと別れの季節を直撃した

3月から4月にかけての歓送迎会シーズンを直撃。やむを得ないキャンセルが続く――。



手探りで始まったばかり  
従業員と一丸となって進む

ホテルたけや

歓送迎会シーズンを直撃した新型コロナウイルス。例年、3月から4月は連日のように宴会が行われるホテルたけやも大きな影響を受けました。「昨年に比べ宴会の売上は約9割減、32件すべてがキャンセルでした」と振り返るのは、代表を務める中村智重子さん。それでも祖母の代から70年以上続く店の存続と、従業員の生活を守るために始めたのが、弁当のテイクアウトでした。

「できるだけ温かいお弁当を届けたい」と、注文を受けています。

「みな初めての試みで慣れない作業。とまどいもありますが、外出自粛が続く以上、今できることをしなければ」と新たな一歩を踏み出した智重子さん。保温性の高い容器に変更し、メニューも試行錯誤しながら開発。手作りの看板も設置しました。注文時間は決めますに、できるだけ作りたてを届けたいと1個からでも注文を受けています。

「まだ始めたばかりで手応えはありません。手探りで先が見えないが進むしかないの」とまっすぐ前を向きます。弁当だけに限らず、持ち帰り用の惣菜も準備。焼き魚や煮物、炊き込みご飯といった「夕飯のおかず」シリーズも展開しています。



ゴールデンウィーク中の大根占商店街。「休業」の張り紙とテイクアウトのみ行う飲食店が多く見られた。

## 新型コロナウイルスの感染拡大が観光地閉鎖、イベント中止へと追い込む

春休み、ゴールデンウィークと観光入込みが増える季節。感染拡大は観光地の閉鎖やイベントを中止に追い込み、観光の核でもある食に大きな影を落としました――。



『虹の笑』の味をお弁当に盛り付け  
試行錯誤の挑戦が続く

旬彩創作 虹の笑 (にじのえ)

バスツアーなど、観光客が全体の約7割を占める、「旬彩創作虹の笑」。例年であれば、春の行楽シーズンになると、採れたての季節野菜や新鮮な魚介類をふんだんに使った「虹の笑御膳」を求め、平日にもかかわらず多くの観光客が訪れます。

「4月の売り上げは例年の8割減。外出自粛が直接影響している」と話す常川シエフ。町内や近隣の観光地は連休前から休業し、観光による入込み客は激減しました。

「4月中旬から休業を考えていました。営業による感染リスクが大きいです。お客さんや家族への感染も怖い」と見えない敵を前に悔しさと不安の色を滲ませます。それでも、今できることをやるしかないと始めたテイクアウト。貴重な屋久杉をふんだんに使用した日本家屋で、コース料理を提供していた虹の笑独自のスタイルから、持ち帰り弁当への切り替えは悩んだ末の新たな挑戦でした。

「冷めてもおいしい料理を。衛生面は特に注意している」と、勝手の違いに戸惑いつつも一つひとつ丁寧に盛り付けていきます。「いまは常連さんの注文がほとんど。持ち帰っても食べたいと言ってくれる温かい声に救われている」と、感謝の思いを胸にさらなる挑戦が続きます。

今はただ、できることを――  
いつか笑顔に出会うために



でんしろ うんめもの会



相次ぐイベントの中止や開催延期。町内でも花瀬公園まつりや駅伝など、多くの恒例行事が中止に追い込まれるなか、物産館やイベント、観光ツアーでの販売を中心に活動する、地元元加グループ「うんめもの会」も影響を受けています。

「3月から徐々に販売が落ち込み、4月は昨年比85万円の減。今後の目処が立たない」と話すのは、代表を務める猪鹿倉房子さん。同会の6割以上を占めているのがイベントや観光ツアーでの販売ですが、出口の見えない状況に期待は持てないと続け

ます。そこで、本格的に取り組み始めた宅配事業。けせん団子やあくまき、ガネといった鹿児島郷土料理は根強い人気で、「外出できないので送ってほしい、孫の節句にあくまきを」と宅配の電話も増えています。

「注文の多くはリピーターの方。イベントやツアーで出会ったお客さんの電話や手紙に元気をもらっています。本当は喜ぶ顔を見たいけれど、我慢のとき。今はただできる事を続けたい」と未来を見つめます。またいつか、満開の桜を見ながら素敵な笑顔に出会えることを願います。



フランスやオーストラリア、東京で修業を積んだ経験と技を生かし、和と洋を融合させた創作料理を丁寧に盛り付けていく。